

SAGAMIHARA GREEN

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

★「さがみはらグリーン」は、まち・みどり公社本社（けやき会館内）をはじめ、市内の市立公園や公民館、図書館等に配架しております。

URL <http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>

Vol.57 2017.09

左上クレマチス（「ザ・プレジデント」） 右クレマチス（「H・F・ヤング」） 写真提供：南信之

2ページ▶

クレマチス特集
来春上手に咲かせるポイント

3ページ▶

花のまちづくり花壇コンテスト結果
みどりのボランティア団体紹介

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて

暮らしを彩るボタニカル・ライフ ～ドライハーブを作ろう～

ガーデンデザイナー 志村みか

フレッシュハーブを惜しげもなく使える季節も終りに近づき、そろそろお庭のお手入れの時期です。ハーブは、剪定をしてドライにすれば、長期保存もできて色々な場面で活用できます。月桂樹や樹木系のハーブも剪定をしたときにドライにしておくと重宝します！

ドライハーブの作り方

- ①収穫したハーブを水で洗い、蒸れたりカビないように、少ない量を輪ゴムで束ねます。
 - ②風通しがよく、直射日光の当たらない場所に、束ねた方を上にして吊り下げます。
 - ③乾燥したら、密閉容器に乾燥剤を入れ保管します。容器にはハーブ名と作成日を書いて、湿気や温度変化の少ない場所に保管するようにしましょう。
- ドライハーブは、長期保存ができますが、半年から1年で使い切るようにしましょう。





パープル・シャドウ
(新旧両枝咲きタイプ)



クレマチスを 来春上手に咲かせるポイント

彼岸が過ぎて暑さが収まる頃から、来春の開花に向けた管理をしましょう。

【花がら摘み (9月～12月)】

暑さが収まると四季咲きの大輪系品種や秋に咲くクレマチスが花を咲かせ始めます。また、生長を再開してつるを伸ばし始める品種もあります。開花した花は、花弁が散ったら種(果球)を鑑賞したり採ったりしない限り、花がら摘み(花首を切る)をします。花後の剪定は行いません。



種(果球)

【冬の剪定 (1月～3月)】

剪定のポイントは 芽です。

まず、育てている品種が次の3つのうち、どのタイプか確認しましょう。

- 1 春に前年に伸びた枝の節から、新芽が出て伸びて咲く品種 (旧枝咲きタイプ)
- 2 春に地面から新芽が出て伸びて咲く品種 (新枝咲きタイプ)
- 3 1と2両方のパターンで咲く品種 (新旧両枝咲きタイプ)



紀三井寺
(旧枝咲きタイプ)



テキセンシス
(新枝咲きタイプ)

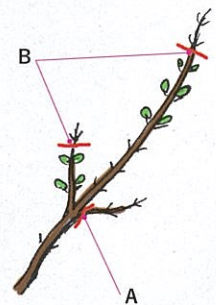
旧枝咲きタイプと新旧両枝咲きタイプ

この時期になると太った丸い芽(花芽)が確認できるようになります。

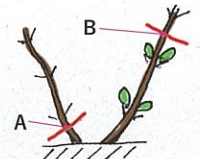
- A 芽がついていないつるは、つけ根で切っておきます。
- B つるの先端に近い太った丸い芽(花芽)の上で切ります。

新枝咲きタイプ

- A 地上部が枯れている場合には、地際で切ります。
- B 地上部が残っている場合には、1、2節を残して切ります。



旧枝咲きタイプ
新旧両枝咲きタイプ



新枝咲きタイプ

【施肥】

- 9月(～10月上旬) 暑さが一段落する彼岸過ぎに、リン酸の多い緩効性肥料を与えます。旧枝咲き、新旧両枝咲きのタイプは10月から11月に花芽分化が起きますので、この時期の施肥は来春の花付きに大きく影響します。
- 10月 緩効性肥料を1回、または、液体肥料を月2回施します。
- 11月 液体肥料を月2回施します。緩効性肥料は施しません。
- 12月中旬～1月 春からの生長を支える有機質肥料を与えます。※化成肥料でも構いませんが、土壌の微生物にも有効な有機質肥料がお勧めです。
- 2月 肥料は施しません。
- 3月 芽出しのための追肥としてリン酸分の多い液体肥料を1～2週間に1度施します。

【病虫害】

- 11月頃までは、うどん粉病、さび病、白絹病などに注意してください。薬剤を使用する際には使用方法(使用量、使用回数)を守って散布してください。
- 11月から2月までは特に病虫害は発生しませんが、芽が動き出す3月に向けて、休眠中に薬剤散布を行うと効果的です。

都市緑化推進事業 ～みどり豊かなまちづくりを目指して～

花のまちづくり・みどりいっぱい運動 ～花のまちづくり花壇コンテスト～

主催：公益財団法人相模原市まち・みどり公社 後援：相模原市

まち・みどり公社では、市内における緑化活動の推進を図るため、市内の公園や道路沿い等の花壇管理をされている市民団体の皆さまに花の苗を配付し、花のまちづくりを進めています。登録団体約300団体のうち、コンテストにご応募いただいた花壇の中から、計13か所の花壇が入賞しました。（審査：平成29年8月）



平成29年度
金賞
まち・みどり
公社認定
ゴールド花壇

ルネ東林間自治会
「サークルふれあいガーデン」
(南区)



橋本台環境事業所
「花とみどりを育てる会」
(緑区)



平成29年度
銀賞

本久自治会
(中央区)

その他、次の登録団体の皆さんが入賞されました。（50音順）

- 銅賞 サークル沢（緑区）
道保川・水と魚に親しむ会（南区）
メゾン鹿島台 みんなの花壇（南区）
- 奨励賞 F・C ボランティア（中央区）
大沢男性ボランティアの会（体育館北側）（緑区）
JA相模原市女性会 新磯支部（南区）
自治会法人 田中自治会（中央区）
すすきの自治会（中央区）
並木スマイルクラブ（中央区）
西一絆会（南区）

入賞花壇の
パネル写真展

- ▶ けやき会館
平成29年9月30日(土)～10月9日(月)
- ▶ 市民健康文化センター
平成29年10月11日(水)～10月18日(水)
- ▶ LCA国際小学校北の丘センター
平成29年10月24日(火)～10月31日(火)

お問い合わせ
(公財)相模原市まち・みどり公社 みどり推進課
TEL 042-751-6624(直通) FAX 042-751-2345
URL <http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>



相模原のカザグルマを守る会

「カザグルマ」は環境省の「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック（RDB）」では準絶滅危惧種、神奈川県RDBでは絶滅危惧ⅠB類に登録されています。当会は市内でもわずかに残存が確認されている「カザグルマ」自生地の環境保全及び保護・繁殖活動を行っています。

市内でのカザグルマの情報お待ちしております。また、ボランティアに関心のある方は（公財）相模原市まち・みどり公社 みどり推進課 TEL 042-751-6624（直通）FAX 042-751-2345までご連絡ください。





県立 津久井湖城山公園の ムササビ

県立津久井湖城山公園は、相模原市緑区にある城山と戦国時代の山城（津久井城跡）を抱えた公園で関東平野と関東山地の境目、山麓として低山地の里山環境を色濃く残しています。

ムササビは、相模原市緑区の西部、特に関東山地や丹沢山の山麓部に生息しており、当公園をはじめ、神社やお寺の周りに広がる林など大きな樹が残る場所で出会うことができます。ムササビはリスの仲間で体重は約1kg、大きさは全長で約80cm（座布団くらい）にもなります。一番の特徴は両手足の間と足と尾の間にある膜を広げて、木から木へと空中を滑空して移動することです。また昼間は樹洞等で寝ており、日没後30分頃になると活動を始める夜行性の動物です。

～ムササビと出会うためには～

ムササビを観察するには、驚かさないようにライトは赤いフィルムで覆い、懐中電灯を持つ時は自分の目の横に持ってくるとムササビの目が反射して見つけやすくなります。顔が見えても騒がず、懐中電灯を当てっぱなしにせず、ムササビを驚かさないように観察しましょう。

ムササビ観察の旬は木の葉が落ちて見やすくなる冬です。晩秋から冬にかけての時期は防寒対策をして是非お出かけください。

文・写真：清水 海渡

県立津久井湖城山公園

住所：相模原市緑区根小屋162（根小屋地区パークセンター）
TEL 042-780-2420

アクセス：JR橋本駅からバス「三ヶ木」行き
「津久井湖観光センター前」下車、
徒歩20分（根小屋地区）

津久井湖城山公園は、（公財）神奈川県公園協会が指定管理者として管理運営しております。



昼間に顔を出したムササビ



ヤマザクラの花を食べるムササビ



ムササビの滑空

相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告

KIRIN

広告



相模原造園協同組合

http://www.sagamihara-zouen.jp/
TEL：042-773-8977 FAX：042-773-5051

お庭のお手入れや
緑化工事など、
お気軽にご相談ください。

2017年9月1日発行／編集・発行者・発行所：〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23 公益財団法人 相模原市まち・みどり公社
TEL：042-751-6623 FAX：042-751-2345

本紙に対するご感想、ご意見をお寄せください。ホームページにもぜひアクセスを… <http://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>